

変動する地球の気候

気温や海水温が上昇し、雪や氷が溶けており、海面上昇のスピードはこれまでのどの世紀よりも速くなっています。人間の活動による大気中の二酸化炭素、メタン、その他の温室効果ガスの増加がその原因です。

国際社会の動き

大気中の二酸化炭素濃度は産業革命前から40パーセント増加しています。気候変動の影響を抑えるために、国際社会はパリ協定を通じて温室効果ガスの排出量を安定化・削減し、今世紀の世界の平均気温の上昇を2度以下に抑えることを目指しています。

湿地：気候変動に対応する鍵

湿地は自然による解決策です

世界における災害の頻度はわずか35年で2倍以上になり、その90パーセントは水に関連する災害です。さらなる異常気象が今後予測されています。湿地は温室効果ガスの排出を安定化させ、気候変動の影響を軽減するのに重要な役割を果たします。

湿地は異常気象による海岸線への衝撃を和らげます

塩生湿地、マングローブ、藻場、サンゴ礁など沿岸の湿地は緩衝装置のような働きをします。沿岸の湿地は波、高潮、津波の強さを軽減し、海岸沿いに暮らし働く人々の60パーセントを、洪水、物的損害および命の危機から守ります。

湿地は洪水を減らし、干ばつを緩和します

氾濫原、川、湖、沼地など内陸の湿地は、豪雨を吸収、貯留したり、洪水を弱めるスポンジのように機能します。乾燥帯における乾季には、湿地は貯めていた水を放出し、干ばつの発生を遅らせ、水不足を最小限に抑えます。

湿地は炭素を吸収し貯蔵します

泥炭地、マングローブおよび海草は膨大な量の炭素を貯蔵しています。泥炭地はこの惑星の土地の約3パーセントを占めるにす

ぎませんが、すべての陸上の炭素の約30パーセントを貯蔵しています。これは世界の森林をあわせた炭素の貯蔵量の2倍にあたります。湿地は地球上で最も効果的な炭素吸収源です。

私たちは湿地を乾燥させてはいけません

農業のためによく行われるように湿地を乾燥させたり、焼き払ったりすると、湿地は炭素吸収源から炭素排出源に変わり、何世紀にもわたって貯蔵されていた炭素が大気中に放出されます。排水され、焼き払われた泥炭地からの二酸化炭素の排出量は、年間のすべての化石燃料からの排出量の10パーセントに相当します。

私たちは湿地を保全し、再生する必要があります

気候変動に対処する戦略には、湿地の賢明な利用が含まれなければいけません。私たちは1970年以来、すでに35パーセントの湿地を失っています。気候変動に備え、対応し、その被害から回復するため、個人、地域社会および政府は、協力して湿地という素晴らしい生態系を守る必要があります。



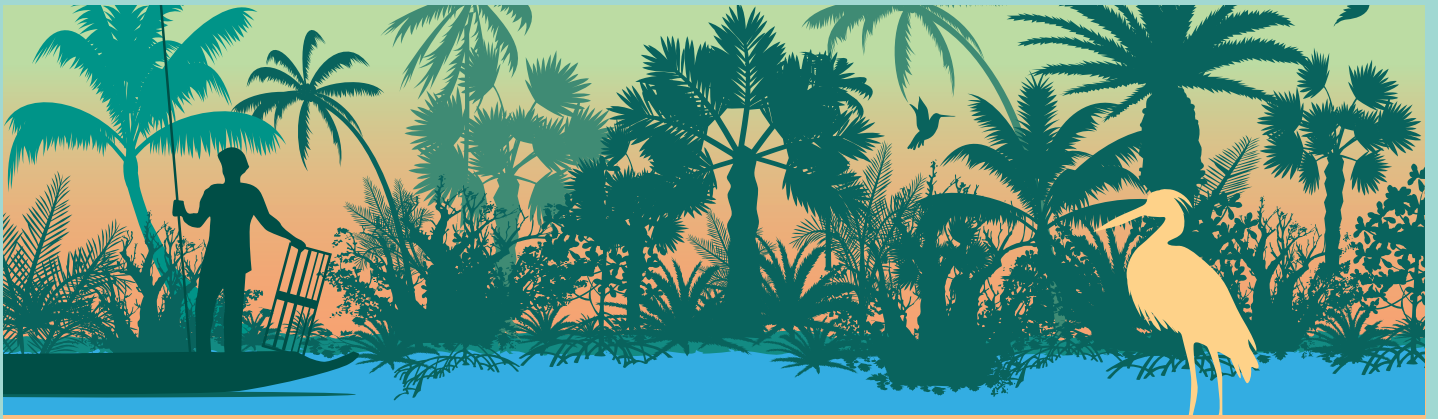
#KeepWetlands
#WorldWetlandsDay
www.worldwetlandsday.org

世界湿地の日
2019年2月2日
湿地と気候変動



DANONE
ONE PLANET. ONE HEALTH.
World Wetlands Day
is made possible by the
Danone Fund for Water.





私たちは気候変動に対して無力ではありません

湿地を守ることは、気候変動に備え、対応し、その被害から回復するのに役立ちます

多様な利益をもたらす西アフリカのマングローブ再生

世界最大のマングローブ林再生プロジェクトがセネガルのカザマンスおよびシヌ・サルーム地方で進行中です。このプロジェクトは、10,000ヘクタール以上に7900万本のマングローブを植林し、1970年代から失われた45,000ヘクタールのマングローブ林の一部を再生することを目的としています。これらの湿地の再生によって、沿岸部は暴風雨から保護され、水田耕作が盛んになり、毎年18,000トンも多く魚が生産され、20年間にわたり50万トンの二酸化炭素が貯蔵され、地域の350村と20万人が参加し、権利を手にし、保護されるでしょう。



炭素を隔離する北欧・バルト諸国の泥炭地

北欧・バルト地域の泥炭地の集中的な再生の取組により、すでに20,000ヘクタールが回復しています。この取組は「気候変動の制御のために泥炭地を守る」という北欧閣僚理事会による貢献の一部です。理事会はデンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデンを代表して、乾燥化により地域の年間の二酸化炭素排出総量の約25パーセントを排出する北欧・バルト諸国の泥炭地の45パーセントを再生するために努力しています。再生された泥炭地は、炭素排出源ではなく炭素吸収源に戻り、大気中の温室効果ガスの抑制に役立っています。

津波の影響を軽減する東南アジアのサンゴ礁

サンゴ礁は、海水温の上昇、海洋の酸性化、人間による直接的な損傷により死滅しつつあり、地域社会へのサンゴ礁の重要性はもはや無視できなくなりました。2004年のインド洋大津波を考えてみましょう。海洋公園として沖合のサンゴ礁が保全されていたスリランカのヒッカドゥワでは、被害はわずか内陸50メートルまでにとどまりました。サンゴの採掘によりサンゴ礁が破壊されていた近くのペラリヤでは、被害が内陸1.5キロメートルまでおよびました。最近の研究によると、死滅したサンゴ礁に比べ健全なサンゴ礁は、津波のような自然災害からの防御において最大2倍の効果を地域社会に提供しています。



異常気象の影響を和らげる北米沿岸部における湿地

2012年ハリケーン・サンディがアメリカの東海岸を襲撃し、24州で被害をもたらしました。もし沿岸湿地がなかったら、その被害状況はより悪化していたでしょう。最近の研究によると、アメリカ北東部の沿岸湿地はハリケーン・サンディの直接的な水害から6億2500万ドルの損害を防ぎ、影響を受けた地域の半分で22パーセント以上、その他の地域で30パーセントの被害を軽減しました。1980年代の初めから北大西洋のハリケーンの強さ、頻度、持続期間は増大しており、アメリカの湿地の50パーセントを保護することが不可欠です。



#KeepWetlands
#WorldWetlandsDay
www.worldwetlandsday.org

世界湿地の日
2019年2月2日
湿地と気候変動



World Wetlands Day
is made possible by the
Danone Fund for Water.



Convention
on Wetlands